



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
9/5 (月)	+ 900	▲ 8,800	▲ 7,900	国庫短期証券 発行・償還 (3M)	国債補完供給 CP等買入 + 6,700 ▲ 300	国債買入 + 10,900	欧: ユーロ圏小売売上高 (7月)
9/6 (火)	+ 1,000	トン	+ 1,000				米: ISM非製造業総合景況指数 (8月) 英: 新首相就任の見通し
9/7 (水)	トン	▲ 9,000	▲ 9,000	国債発行・償還 (30年)			米: ページブック公表 米: 貿易収支 (7月) 欧: ユーロ圏GDP (2Q)
9/8 (木)	トン	▲ 1,000	▲ 1,000				日: GDP改定値 (2Q) 米: パウエルFRB議長、講演 米: 新規失業保険申請件数 (3日終了週) 欧: ECB政策金利発表、ラガルド総裁記者会見
9/9 (金)	▲ 1,000	▲ 5,000	▲ 6,000	流動性供給			欧: ユーロ圏財務相会合

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初538兆8,900億円から始まり、31日には新型コロナウイルス感染症対応金融支援特別オペの期日落ちにより519兆6,600億円まで大きく残高を減らした。その後も国債発行や税・保険揚げを要因に減少し、週末となる2日には511兆7,700億円となった。

無担保コールON物は週を通して軟調な地合となった。資金放出ニーズの高まりから同加重平均金利は週初の△0.039%から緩やかな低下基調を辿り、週末まで△0.044%~△0.039%のレンジで推移した。週末となる2日においても資金放出ニーズは堅調であり、同金利は△0.048%とさらに低下した。

ターム物は1W~1Mを中心に△0.040%~△0.025%のレンジで出合が散見された。

来週の主な予定は、国内では8日に4~6月のGDP改定値の発表などが予定されている。海外では8日にパウエルFRB議長の講演や、ECB政策金利の発表などが予定されている。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.080 ~ 0.001
1M	△0.060 ~ 0.020
2M	△0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.005

<レポ>

足許GC取引は週初△0.095%近辺から始まり、月末初物となる30日の取引は△0.10%台が出合いの中心となった。以降は△0.10%~△0.090%で取引され、短国3Mの入札日となった2日の取引は、△0.08%台まで上昇して越過した。SC取引は2年430~440回債、5年148~153回債、10年350~367回債、20年171~181回債、30年65~75回債、40年9~15回債などに引合が多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆615億円で、週間償還額 (約1兆7,600億円) を下回った。発行市場は、月末の大量発行と電気業や石油製品等の幅広い業種で大型案件が実施され、活況となった。発行残高は先週末に29兆751億円となり、29日には日次ベースにて過去最高を更新する29兆853億円となり、月末時点では28兆1,758億円と月末ベースでの過去最高を連月で更新した。市場残高は引き続き高水準で推移しており、発行レートは、0%から若干のプラスレートでの出合となった。26日に、CP等買入れオペが予定通り4,000億円で実施された。結果は、按分落札レート0.001% (前回0.000%) ・平均落札レート0.022% (前回0.001%) と、按分レートが20年4月24日 (0.052%) 以来のプラスとなり、按分・平均落札レートが共に前回比で上昇した。

来週の週間償還額は、約4,700億円となっている。発行市場は、資金調達ニーズが引き続き根強いものの、中間期末を睨んだ償還が多くなり、落ち着いたマーケットが予想される。発行レートは、0%近辺での出合が多く、一部発行残高が積みあがった銘柄については若干のプラスレートを予想する。

<TDB>

9月2日の3M1105回債の入札は、最高落札利回り△0.1062% (前回債△0.1062%)、平均落札利回り△0.1098% (前回債△0.1134%) となった。来週は9月8日に6M、9月9日に3Mの入札がある。